分野(領域)	専門分野Ⅱ	科目名	老年看護学方法論IV		
	【老年看護学】		(感覚器系・眼科)		
単位(時間)	1 (27 時間うち 9 時間)	開講時期	1年次	2年次	3年次
講師	外部講師				
科目目標	1. 感覚機能障害を持つ高齢者の看護を理解する。				

## 【講義内容】

### 第1章 眼の看護

- A 医療の動向と看護
- B 患者の特徴と看護の役割

### 第2章 目の構造と機能

- A 眼球
- B 視神経・視路
- C 眼球付属品

## 第3章 症状とその病態生理

- A 視機能に関連した症状
- B 視機能に関連しない症状

### 第4章 検査と治療・処置

- A 検査と診断の流れ
- B 検査
- C 治療

## 第5章 疾患の理解

- A 機能の障害
- B 部位別の疾患
- C 外傷
- D 全身疾患との関連

#### 第6章 患者の看護

- A 経過別にみた看護
- B 症状に対する看護
- C 診察時の看護
- D 検査を受ける患者の看護
- E 治療・処置を受ける患者の看護
- F 手術を受ける患者の看護
- G 疾患をもつ患者の看護
- H ロービジョンケア

### 【テキスト/参考文献】

(眼科) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[13] 眼 第1章~第6章

## 【評価】

学科試験 筆記;100点をもって満点、60点をもって合格とし、60点未満を不合格とする

分野(領域)	専門分野Ⅱ	科目名	老年看護学方法論IV		
	【老年看護学】		(感覚器系・皮膚)		
単位(時間)	1 (27 時間うち 9 時間)	開講時期	1年次	2年次	3年次
講師	外部講師				
科目目標	1. 感覚機能障害を持つ高齢者の看護を理解する。				

## 【講義内容】

- 第1章 皮膚の看護を学ぶにあたって
  - A 医療の動向と看護と看護
  - B 患者の特徴と看護の役割
- 第2章 皮膚の構造と機能
  - A 皮膚の構造
  - B 皮膚の機能
- 第3章 症状とその病態生理
  - A 発疹
  - B 瘙痒 (かゆみ)
  - C 皮膚の老化
- 第4章 検査と治療・処置
  - A 検査と診断の流れ
  - B 検査
  - C 治療
- 第5章 疾患の理解
  - A 表皮性皮膚疾患
  - B 真皮・皮下脂肪織および皮膚付属器
  - C 脈管系の異常による皮膚疾患
  - D 物理·化学的皮膚障害
  - E 腫瘍および色素異常症
  - F 感染症
  - G 全身性疾患に伴う皮膚病変

# 第6章 患者の看護

- A 疾病の経過と看護
- B スキンケア
- C 症状に対する看護
- D 検査を受ける患者の看護
- E 治療・処置を受ける患者の看護
- F 疾患を持つ患者の看護

## 【テキスト/参考文献】

(皮膚) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[12] 皮膚 第1章~第6章

## 【評価】

学科試験 筆記;100点をもって満点、60点をもって合格とし、60点未満を不合格とする

分野(領域)	専門分野Ⅱ	科目名	老年看護学方法論IV		
	【老年看護学】		(感覚器系・耳鼻咽頭科)		
単位(時間)	1 (27 時間うち 9 時間)	開講時期	1 年次	2年次	3年次
講師	外部講師				
科目目標	1. 感覚機能障害を持つ高齢者の看護を理解する。				

### 【講義内容】

### 解剖生理学

第2章 栄養の消化と吸収

A 口・咽頭・食道の構造と機能

第3章 呼吸と血液のはたらき

A 呼吸器の構造

② 上気道

第8章 情報の受容と処理

H 耳の構造と聴覚・平衡覚

I 味覚と嗅覚

### 成人看護学

- 第1章 耳鼻咽頭の看護を学ぶにあたって
  - A 医療の動向と看護
  - B 患者の特徴と看護の役割
- 第2章 耳鼻咽頭・頸部の構造と機能
  - A 耳の構造と機能
  - B 鼻の構造と機能
  - C 口腔と唾液腺の構造と機能
  - D 咽頭の構造と機能
  - E 喉頭の構造と機能第3章 症状とその病 態生理
  - A 耳にあらわれる症状と病態生理
  - B 鼻にあらわれる症状と病態生理
  - C 口腔, 唾液腺, 咽頭にあらわれる症状と 病態生理
  - D 喉頭にあらわれる症状と病態生理
- 第4章 検査と治療
  - A 検査と診断の流れ
  - B おもな検査
  - C おもな治療

### 【テキスト/参考文献】

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学

第2章 p66,67,73 第3章 p100~114 第8章 p447~455

成人看護学[14] 耳鼻咽喉 第1章~第6章

# 【評価】

学科試験 筆記;100点をもって満点、60点をもって合格とし、60点未満を不合格とする

## 第5章 疾患の理解

- A 耳疾患
- B 鼻疾患
- C 口腔・咽喉頭疾患
- D 気道・食道・頸部疾患と音声・言語障害

## 第6章 患者の看護

- A 経過の経過と看護
- B 症状に対する看護
- C 検査を受ける患者の看護
- D 治療を受ける患者の看護
- E 疾患をもつ患者の看護